

大正

あんなものから
こんなものまで
つくっています

- 1 鈴木合金
- 2 港湾局 鶴町機械工場
- 3 山忠木材
- 4 飛鳥鉄工所
- 5 港南工作所
- 6 日本電機研究所
- 7 糸永熔接工業所
- 8 丸十服装
- 9 栄光堂印刷所

ものづくり

MAP

Vol. 2



大阪市大正区

大正区を支える

ものづくりの

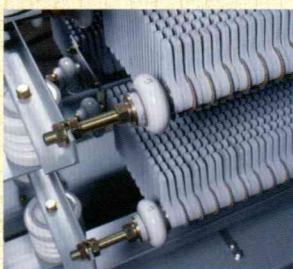
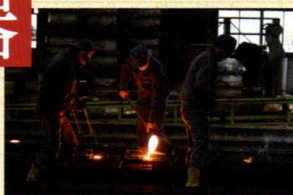
現場

Vol.2

昭和7年(1932)に発足した大正区は、周りを海と川に囲まれた水運豊かな島である。かつては、大阪を「東洋のマンチエスター」という名で知らしめた大阪紡績会社をはじめ、名だたる自動車工場に造船所、貯木場に鉄鋼所が立ち並び「ものづくり」の最先端のまちだった。現在もその伝統や誇りを受け継いだ企業が、ものづくりに励む現場に潜入してみよう。

※工場見学をご希望の方は、事前に大正区役所へ06-43394-9942へご連絡ください。

抵抗器



急勾配の坂を走る電車で、大電力が流れる電力会社用など、用途によって抵抗器の形状は色々。

手作りの抵抗器が、新幹線を走らせる。

1 鈴木合金

大正6年(1917)に創業し、主に車両用・電力用・一般産業用の抵抗器を設計から製作まで手がける専門メーカーとして、もうすぐ100周年を迎える鈴木合金。新幹線を始めとする鉄道車両抵抗器では、国内有数のシェアを誇る。発電所や変電所で使われる電力用抵抗器や、最近では海外で活躍する超大型ダンプカー(積載質量300トン)に搭載される抵抗器の開発や生産にも力を入れる。

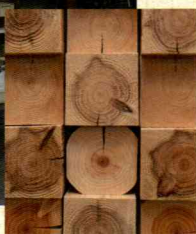
「一番の強みは、オーダーメイドで必要とされる抵抗器をスピーディーに提供できる設計や生産技術を持っていること」と取締役の坂口員平さん。その作業風景をのぞけば、キュービクルを作る鋳金から様々な抵抗体を加工している職場があり、中でも鋳物タイプの抵抗体は180度以上ねじっても折れないほどの高い強度。長年の製造経験で培ったノウハウが活かされている。

●大正区鶴町 2-5-16
☎06-6555-1701
<http://www.suzuki-gokin.co.jp>



木のあたたかさを、
地元大正に伝えたい。

木材



高齢者向けの杖や、履きやすい室内履きなど健康福祉用品を販売。お茶のサービスも好評。

3 山忠木材

水運で栄えた木材関連会社が、大正区には数多い。中でも、大正12年(1923)創業の山忠木材はトップクラスの老舗だ。工務店などに木材や建築資材を提供しており、平成19年(2007)には設計事務所や工務店と「おおさか木の家づくり隊」というグループを結成。大阪の河内長野や泉南地区で伐採された、天然木材での家づくりを推進している。

また、昨年にサービスサロン「たるうの店きごころ」を本社隣に開店。木の香りがただよう店内では、リフォームや福祉住環境など、住まいに関する無料相談ができる。事前申し込みで、1~2時間ほどミニサークル活動に利用することも。「障がいつながりサロン」や「親子サロン」なども定期開催。「家や暮らしのことで困ったことがあれば、お気軽にどうぞ」と、地域に密着した会社を熱心に目指す山本忠社長だった。



●大正区千島 3-18-9
☎06-6552-0781
<http://www.yamachuwood.com>

2 港湾局 鶴町機械工場

「港の番人」として、海の安全に今日も目を光らせている大阪市港湾局。明治30年(1897)に始まった大阪港築港事業に伴い、明治32年に創設され、今年で115年の節目を迎える。敷地には7つの工場と、全長36メートルの船が入るドックと上架台。普段は、大阪市が保有する船舶や港湾機械設備などのメンテナンスを行なう。大正区民にはおなじみの、渡船の修理も担当。

近年の重要な役目は、南海トラフ大地震に備えての防潮鉄扉と水門の維持管理。大阪市の湾岸部は地震が起きて2時間後に、最大5メートルの津波に襲われると予測されており、市内の津波被害を防ぐためのカギとなる。職員は日々防潮鉄扉の動作を確認し、地元の水防団とも連携して訓練を行ない、不測の事態に備えている。

●大正区鶴町 2-20-47 ☎06-6552-0057
<http://www.city.osaka.lg.jp/port/>



重さ9トンもある電動の防潮鉄扉は、停電時には手動のハンドルでも軽く動かすことができる。

防潮鉄扉

5-1

この扉で、大阪市民の命を守る。





船舶 機械整備

船の仕事で培った技術は大正随一。

5 港南工作所

木 津川近くにある港南工作所は、長年にわたり、大阪湾や日本各地を運航するフェリーたちの面倒を見てきた。得意とするのは、エンジンの修理。その技術を活かし、下水処理工場のスクルーポンプ製造や、陸上の仕事にも進出を果たした。

その一つが、自動車の解体工場や建築廃材の処理で使われる、巨大破砕機のメンテナンス。「産業廃棄物の処理プラントは危険物も扱うし、作業環境も厳しい。船の仕事をやってきたうちだからこそ、対応できるんです」と古瀬竹善社長は胸を張る。実は、廃棄物処理機器の多くはドイツなどの外国製。いざ故障した時、修理部品を取り寄せると時間がかかるのが難点だ。しかし、そこは「図面さえあればたいいの部品は作れる」技術を持つ港南工作所。多くの工場が「いざという時」に相談に訪れる、頼れる兄貴分なのだ。



自動車やコンクリート材をも砕く巨大破砕機のブレード。鋼鉄でコーティングし強度を高める。

●大正区千島 1-1-49
☎06-6551-7373



4 飛鳥鉄工所

飛 鳥鉄工所の専門は、工業用ガスバーナーやその附帯設備の製作。国内外の自動車やタイヤ、ガラスのメーカー工場で、アルミニウムの溶解や鋼材の強度を増すための熱処理で用いられている。電気ヒーターよりもランニングコストが安く、重油よりも温度制御がしやすいのがガスバーナーの利点。工場によって発注サイズや形が異なるので、すべて一点モノの受注生産だ。「一個のバーナーを作るには旋盤加工、フライス加工、折り曲げ、溶接、組み立てと多数の工程が必要。うちは、その作業が一箇所で出来るんです」と西林新次社長は語る。自社工場だけで難しい作業は、近隣会社にすぐ発注できるのも大正区に根ざす強みだ。

技術力に惹かれ、入社を決めた新卒生もいる。「一人前の職人になるまでに12、3年はかかりますね」という73歳の西林さん自ら、今日も現場で汗を流す。

●大正区千島 1-1-47
☎06-6554-0488



父の工場で金属加工を覚え40年前に独立。「大正区は部品調達がとても便利。仕事がしやすいですね」



モノづくりには欠かせぬ「火」のプロ集団。

工業用ガスバーナー



溶接 溶接の困り事、 よるす引き受けます。



工場の排気ガス処理設備の配管部品を溶接。板金や折り曲げ機械も自社で持ち、顧客の要望に応える。

7 糸永溶接工業所

「溶接で困ったら糸永に相談しろ」と大正区の内外からSOSが舞い込む、昭和23年(1948)創業の溶接工業所。ステンレス、アルミ、鉄やチタンといった特殊合金も溶接できる、「アルゴン溶接」の腕が支持される所以だ。パチパチ火花が飛び電気を使ったアーク溶接と異なり、火花が飛ばないアルゴン溶接は作業跡が残りにくい。ガスが皮膜となって製品の酸化を防ぐので、細かい部品や完成品の溶接向けの技術だ。

得意先は100社以上になり、古い顔なじみばかり。「大正区の良いところは、同じような規模の町工場がたくさんあって、自然と顔なじみになれること。私も父の跡を継いで工業会の青年部に入り、同年代の仕事仲間はずいぶん助けられました」と二代目社長の糸永敏雄さん。毎年、地元の中学校から学生が訪れ、溶接の職場体験授業も行っている。



来客を出迎える工場看板犬のシベリアンハスキー、ティナとアンナ。職人さん達にも可愛がられている。

●大正区泉尾 6-6-26
☎06-6552-1731

6 日本電機研究所

工 場の生産ラインに並ぶ、たくさんのロボットや機械。それらがタイミングを合わせ、きちんと動くようにコントロールするのが、日本電機研究所が製作している「制御盤」の役目。機械のオン・オフだけでなく、小麦粉の工場であれば湿度や温度に合わせてブレンド方法を自動調節する、工場の生産活動における「司令塔」といわれた。

顧客は自動車メーカーや大手食品会社。彼らが、アジアやアメリカなどの国外に作る工場にも制御盤を納入する。そこで、五代目社長の福地裕文さんが推すのが「リモートメンテナンス」。工場責任者が、遠隔地でもスマートフォンなどで工場の状況を把握でき、万が一のトラブルにも対処できるシステムを確立する。なんと、そういった最新鋭の制御盤を組み立てるには、地元主婦のパートの方々の力が欠かせないのだそうだ。

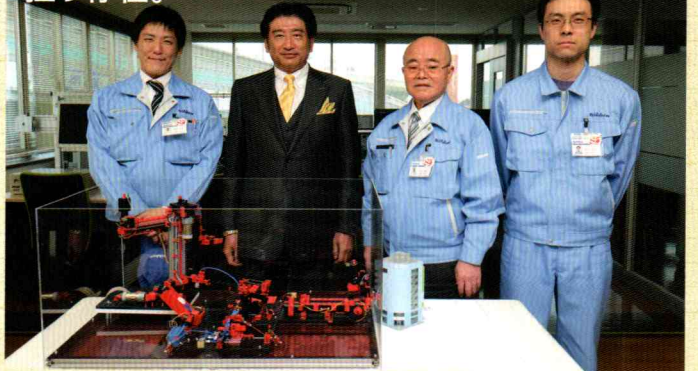


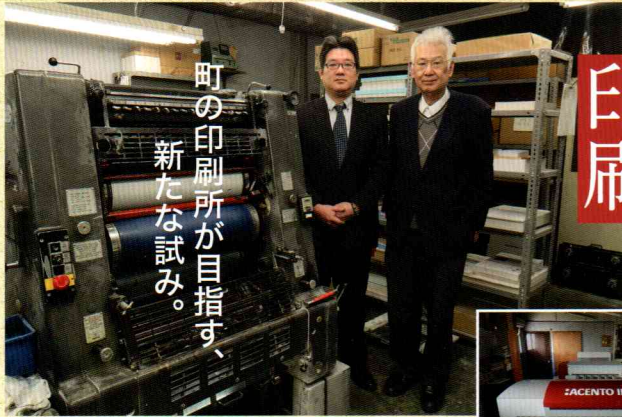
工場には必ずある制御盤。複雑な配線が正しく繋がれているか、念入りにチェックが行われる。

●大正区泉尾 7-1-1
☎06-6552-1471
<http://www.nikken-fa.co.jp>

生産ラインの中核管理を担う存在。

制御盤





町の印刷所が目指す、
新たな試み。

印刷

9 栄光堂印刷所

大 正区の北端に位置する栄光堂印刷所。十八番は、近隣の会社や町工場が使う名刺や封筒、伝票などの事務用印刷物。昭和10年(1935)の創業から「町の印刷所」として親しまれてきた。昭和63年(1988)、「大阪の印刷会社の中でもほぼ一番乗り」のマッキントッシュ導入が転換点に。印刷業界に到来したデジタル化の波を乗り切った。

近年は個人商店向けに、小ロットのポスターや店頭メニューの印刷、パウチ加工などを行なうほか、切手類や文具の販売も手がける。「『オリジナルシールを作りたい』といった個人のお客さんの要望にも、デザインから対応できますよ」と、二代目社長で現相談役の満谷健作さん。30年来の現役選手であるドイツ製オフセット印刷機から、最新鋭のカラープリンタまで備え、顧客のニーズに応える。



ドイツ製の最新CTP。従来のフィルム製版工程がいらす、迅速かつ低コストで、環境にもやさしい印刷が可能に。



●大正区三軒家東 1-2-9
☎06-6551-3456
<http://www.eikodo-print.co.jp>

8 丸十服装

丸 十服装は、ユニフォームの専門メーカー。85年前に港湾で働く船員の人々に、作業着を提供したことが始まりだった。現在はファッションブルな女性の事務服から、レストランチェーンのエプロン、真冬の寒さを防ぐ作業着まで取り揃える。「日本が高度経済成長を迎えた大阪万博や東京オリンピックの頃から、企業のユニフォームに注目が集まるように。働く人々も揃いの制服に身を包むことで団結心が高まり、仕事に誇りを持って取り組めるんです」と西川典男会長は話す。

最近ではリサイクル素材を使った制服など環境対策にも力を入れ、精密機器メーカー向けに静電気除去機能を持たせたユニフォームも開発。物流センターを自社で持ち、受注から生産、発送までをオンライン化することで、小ロットの注文でも迅速に対応できる「製造直販」体制を整えている。



●大正区泉尾 2-3-3
☎06-6552-3921
<http://www.maluju-fuku.co.jp>

ユニフォーム



働く人々を着心地よい
衣服でサポート。

難燃性の素材を使ったユニフォームは、溶接や造船など火気を扱うハードな現場で愛用されている。

ものづくりの素晴らしさを伝えようと、2013年11月に大正区役所で開かれた「第1回 大正ものづくりフェスタ」。「普段、少し遠く感じるものづくりの世界に、親しみを持ってもらうには?」と、企画会議にはものづくりのプロフェッショナルたちが集結。大正区に住む子どもたちにわかりやすく伝えるため、当日はゲームやクイズを通してものづくりを体感できるゾーンを設置。また、複数の企業が銘々の代表製品や新開発の製品を使用した、加工実演や展示も好評。一般的には見る機会のない光景に、あっと驚く声や笑顔があふれました。

子どもと親、企業が一緒になって遊べるだけでなく、アイデアを出し合ったものづくり企業同士の連携も強固に。これからも大正区の誇りであるものづくりの魅力を発信するべく、様々なイベントを企画していきます。

大正区の子どもたちに、ものづくりの精神を語り継ぐために。



平成26年3月31日発行
発行:大正区魅力発信実行委員会 編集:株式会社140B
デザイン:能勢将人 取材・文:大越 裕 写真:浜田智則

